

頌 栄

No. 121

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



子どもも大人も共に主の御前に

牧師 清弘 剛生

子供たちをわたしのところに
来させなさい。(マルコ10・14)

かつて頌栄教会では、主日

礼拝と教会学校の子どもたちの礼拝を分けて行っていました。今日においても、そのような形を採っている教会は少なくありません。しかし、歴史的に見るならば、そのような主日礼拝からの子どもたちの分離は、もともとキリスト教会の礼拝が持っていた姿ではないのです。それは18世紀末に英国から始まった「日曜学校運動」、また近代における教育制度や児童観の変化、そして個人の信仰体験を重視する敬虔主義の影響によって定着してきた、きわめて歴史の浅い営みに過ぎません。

教会の礼拝は、その初めから世代や性別の垣根を越えた共同体の営みでした。教会の礼拝の源流となったシナゴーグでの礼拝や、初期の家の教会においても、子どもたちは自然なかたちで聖書朗読や祈祷に参与し、共同体としての信仰を体感していたのです。礼拝は「分かる者が参加する」場ではなく、「共に神の前に立つ」霊的实践だったのです。

そのような考察と反省から、20世紀後半以降、欧米を中心に「Intergenerational Worship (世代を超えた礼拝)」が再評価されるようになりました。教会とは神の家族であり、礼拝とはその家族が共に神を讃える霊的な集いであるという

理解が広まり、礼拝が共同体形成と信仰継承の場として捉え直されてきたのです。

頌栄教会でも、この二十年间、子どもたちと共にささげる礼拝のかたちを模索してきました。それは単にひとつの教会だけの独自な試みではなく、広くキリスト教界が向き合っている大きな流れの中にある取り組みに他なりませんでした。

そこで重要なのは、子どもたちが共に礼拝できるように変わることではなく、まず大人の方が変わることです。すなわち、礼拝を「共にささげるために集められているという意識を持つことです。そのとき、子どもたちの存在もまた、礼拝を構成する大切な「生きた石」(1ペトロ2・5)であることが見えてくるのです。